



# 笹小だより

No. 8

平成29年11月30日

横浜市立笹野台小学校

## 親子の縁

校長 倉岡 ナオミ

平成29年もあと1か月を残すのみとなりました。各学年の大きな行事も無事に終わり、良い年のまとめができそうです。これまで、たくさんの御支援、御協力をいただき、無事に教育活動を進めていくことができました。心より感謝申し上げます。

以前、通勤していた電車の中で1枚の広告が目にとまりました。題名は忘れてしまったのですが、本の紹介がされていたものです。ある男の子が生まれる前からのことを思い出したことが書かれていました。自分が選んだお母さんになる人のことをじっと見ていたこと、うまく生まれられるか心配だったことなど、驚くことばかりでした。そして、笹野台小学校に着任し、PTA主催の命についての研修会に参加したときに、子育てコンシェルジュの方のお話を聞きました。そのときにいただいた著書の中で産婦人科の先生が胎内記憶・誕生記憶に関する研究をされていることを知り、以前の広告とつながったのです。それによると、どの赤ちゃんもとても力強い信念をもってお母さんを選び、そして生まれてきたこと、お子さんたちは、自らの意志で、自らの使命を決め、最適のご両親を選んで生まれてきているというのです。自分を選んでくれた。この何億という母親の中から……。そう思うと、何とも言えない感動が沸き上がってきました。と同時に、自分もまた成長するために母の元に生まれたのだという思いが、今までの自分を振り返らせました。思い返して浮かんでくる、いろいろな出来事の全てが、自分の今の成長にとって必要なことであったのだと思え、両親への深い感謝が溢れてきました。

(二人とも、すでに他界しており、気持ちを伝えられないことが悔やまれました。)

自分にも二人の娘がおります。もう成人して、独り立ちしていますが、どういう気持ちで私たちを選んでくれたのだろう、どんな夢を持って生まれてきたのだろう、それを果たすために、私たちは親として最大限の援助ができたのだろうかと自問自答しています。同じ親から生まれても全く違う個性を持っています。親であっても理解できないことがたくさんありました。皆様もきっと、日々、悩まれながら子育てをなさっていることでしょう。でも、自分を選んでくれたのだ、大きな夢をもってきたのだと、考えてみると、どうでしょう。つまりは、自分はどう考えるか、考え方次第なのですが。子育ての中で、毎日のように起こる問題も、単に、大変だと考えていらいらしてしまうのではなく、「今、この子は何を学ぼうとしているのかな。」「この子の成長にどう関わることなのだろう。」「そのためにどうしてあげたらよいのだろう。」とプラスに考えることができるのではないのでしょうか。1年の終わりに、親子の縁についても考えてみてはいかがでしょうか。寒さに向かいますが、ちょっと心が温かくなりそうです。